

優秀賞

幸せを運ぶひまわり

福岡県 小郡市立三国小学校三年 小澤 佑友

僕はその日、黄色い風船がさわやかな秋風に乗って、うろこ雲の間をふわふわと飛んで行く様子を思い浮かべていた。それは、六月の暑い日だった。僕たち三年生は、学校の授業で人権の花「ひまわり」を植えることになった。

秋には僕たちが書いた手紙と、ひまわりの種を、風船につけて飛ばす予定だ。去年は、広島まで風船が飛んで行き、拾った方から電話とお手紙をいただいたそうだ。

毎年、選ばれる学校や学年がちがうが、今年は三国小学校三年生になった。僕たちは、運が良いと思った。秋が待ち遠しく、胸が躍った。

小学校通信に、こんな事が書いてあった。「人権の花運動は、主に小学生が対象で、昭和五十七年から実施されている。学校に配布した花の種を、みんな協力し育てることで、生命の大切さを感じ豊か

な心や思いやりの心を育むことが目的だ。ひまわりは、ウクライナの国花でもある」。

ウクライナは、僕にとって遠い国だ。しかし、毎日ニュースにウクライナが映る。ぼくは、いつも恐ろしい気持ちで一杯になり、胸が痛む。今のウクライナに、ひまわりは咲いていないと思った。

毎年八月五日の学校の出校日は、平和学習をする。僕は、この日がきらいだ。なぜなら、戦争のビデオを観なければならぬからだ。とても怖いので、いつも目を手でふさいで、音だけを聴いている。

戦争は、絶対に起こってほしくない。

僕は、世界中のみんなが幸せになるように願いを込めて、風船を飛ばしたいと思った。

今、学校の花壇に植えたひまわりは、ガラガラ輝く太陽の方を向いて、生き生きと咲いている。

僕は、秋晴れの青空にひまわりの種を乗せた黄色

い風船が、力強い風に乗ってぐんぐん高く高く高く、世界中に飛んで行く様子が見える気がした。

